

とよやまオレンジプロジェクト

認知症は誰もがなりうることから、認知症の人やその家族が地域の中で自分らしく暮らし続けるために、認知症への理解を深め、認知症があってもなくても、地域の中で生活を続けていくことができる町づくりに取り組んでいくことが大切です。令和6年度より「とよやまオレンジプロジェクト」と名付け、認知症への理解に向けた普及啓発のためのさまざまな取り組みを行っています。



とよやま オレンジプロジェクト 協力店舗

認知症サポーター養成講座を受講した従業員が1人以上いる店舗や企業等に、その証としてステッカーを順次配布していきます。認知症サポーター養成講座の受講を希望される場合は、お気軽にお問合せください。



協力店ステッカー



町内に広がるマリーゴールドと見守りの輪

認知症サポーターの方々を中心となり認知症支援のシンボルカラーであるオレンジ色の花を育てる取り組みを始めました。役場、公共施設、保育園、介護事業所、医療機関など町内の多くの場所で咲いているほか、認知症サポーターの自宅等でも咲き始めています。マリーゴールドを見たら認知症について少し考えたいという気持ちです。

増えています！ 認知症サポーター

認知症サポーターとは

認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする人です



いずれ自分も認知症になるかもしれないので、理解を深めたいと思い講座を受講し、とてもわかりやすい内容でした。活動を通じて色々な輪が広がることで地域で見守りができる町になるように今後も活動したいと思っています。(鈴木 多美子さん)



以前、認知症サポーター養成講座を受け、「認知症」を自分のこととして考えるようになりました。今回、オレンジプロジェクトの活動に参加して、定年後、社会とつながる大切さを感じ、子どもから高齢者までみんなが助け合い住み慣れたこの町で生活できればうれしいです。(深田 康廣さん)



「認知症という言葉は聞いたことはあったけど、どういう症状かわからなかったから勉強になりました。」
「優しく接したいと思います。」
(石本 詩羽さん、東 夏宮音さん、今枝 佳来さん)

脳の病気であることは知っていましたが、一口に認知症といっても色々な種類や症状があることを知ったことで、認知症を患っている姉の気持ちを理解できるようになりました。
(認知症サポーター養成講座受講者の感想より)



豊寿会代表
中村 百合子さん

自分ごととして考える

「会員が高齢者であり、年を重ねるにつれて、認知症が他人事ではなく感じていて、もしも自分や家族など身近な人が認知症になった時に、病気の理解をしてもらうことで安心できると思い、認知症サポーター養成講座の出前講座をお願いしました。一人暮らしの方も多く、認知症に対して不安をもっている人も少なくありません。正しい認知症の理解をすることは大切で、元気なうちからお互いに声をかけ合える関係づくりを今後も続けていきたいです。」

認知症サポーター 養成講座

認知症サポーター養成講座は、役場での定期開催のほか、企業や団体、学校への出前講座としても開催しています。5月、青塚第二老人会、豊寿会へ出向き、認知症サポーター養成講座を開催しました。

◀ この機会にぜひ参加しませんか ▶

認知症サポーター養成講座 次回開催案内

▷日時：令和6年9月5日(木)、11月13日(水)午後1時～
▷場所：豊山町保健センター 2階研修室



申込み・問合せ：地域包括支援センターあおぞら ☎28・0932 役場1階3番窓口